

二〇二四年五月一日（参加者一二名）

街路樹は新芽立つ茶や宇治をゆく	あひる
阿字池のさざなみと和す藤の影	せいじ
ソーダ水飲み干す海のカフェテラス	なつき
梢洩る日の眩しさよ森薄暑	ぼんこ
山吹の黄が左右つづる石畳	むべ
千枚田掠め掠めてつばくらめ	かかし
豆飯の莢を剥きつつ妣偲ぶ	わかば
満面に新緑湛ふダム湖かな	よう子
橋半ば宇治の早瀬に春惜しむ	せいじ

雑詠句会みのる選・二〇二四年六月一日